

BIMモデルチェックシステムを開発

ビムテク BIM総合情報サイト「steelnavi」で提供を開始

鉄骨エンジニアリング会社のビムテク（神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7、永山和志社長）はこのほど、鉄骨BIMがもつパネルゾーンの情報を可視化できるツール「BIMモデルチェックシステム」を開発。三井物産と共同運営している鉄骨にフォーカスしたBIM総合情報サイト「steelnavi」で提供を開始した。

鉄骨製作図のフローは、基準図承認、一般図承認、製作図（素管）承認、付帯鉄骨図承認、製作図（仕上）承認、現寸業務へと推移して行くのが基本となる。鋼材は鉄工所で、切断・開先加工が完了すると鋼材の長さの変更は不可能。そのため、鉄骨工事では鉄骨製作図の「素管承認」という切断・開先加工実施への図面承認が必要となる。鉄骨BIMモデルから出図された図面に対し、素管承認に必要な情報を2次元追記となる。多くの鉄骨工事で鉄骨BIMモデルと鉄骨製作図の連関が絶たれ、誤作が発生する要因となるなどの課題があった。

同システムは、鉄骨BIMモデルがもつパネルゾーンの情報を可視化できるツールを活用し、鉄骨一般図承認と同時にパネルゾーン承認も提案し「素管承認」の合理化を図るもので、「素管承認」のための製作図（素管）作図スキームの脱却をめざしている。活用するデータは、世界で流通する主要なBIMソフト、CADソフトから出力が可能なIFCファイルとDXFファイルを活用する。そのため、ユーザーが持つ既存のシステムを維持したまま利用できる。

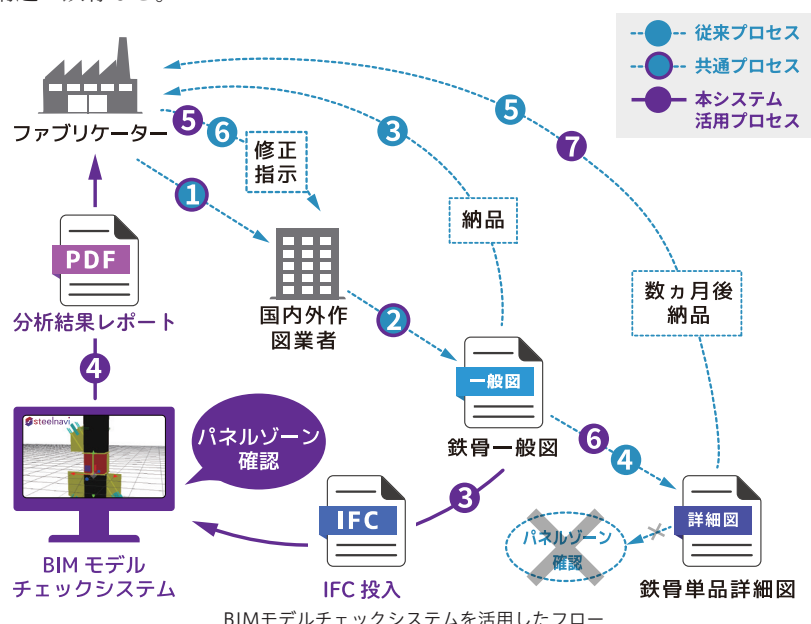
これにより、一般図の作図段階で詳細図でチェックしていたパネルゾーンの確認ができることから、詳細図の前にエラーを排除できる。PDFで出力可能なため誰にでも視覚的に理解でき、構造のイ

メージができる。製品符号のリンクから3Dモデルを表示でき、どの角度からも確認できる。

用途としては、倉庫建物や一般事務所ビルなどのシンプルなコラムHのラーメン構造の鉄骨など。

料金はサブスクリプション方式での運用を予定している。

同社では今後、リンク機能の活用により、iPad上でBIMモデルを選択すると製作図へ遷移できる機能を追加実装する予定。



<https://steelnavi.jp>